

# WHAT'S NEW FROM ASCIKU

NO.79



## 2024年度 第2回研究会を開催

6月25日（火）

2024年度第2回研究会は、これまでのアンケート結果から、平日の開催となりました。

西村会長による開会のご挨拶では、「引き続き会員企業様の声に耳を傾け、改善を進めていきたい。この機会が未来へつながるヒントになることを期待している」と述べられました。また、鶴田機構長からは「ヒントは面前での雑談で生まれることがままあるので懇親会を含め良い機会にさせていただきたい。」とのお話をいただきました。

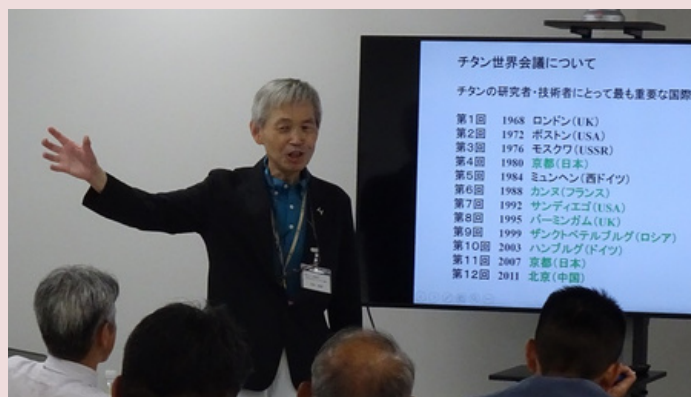
研究会では、振興会の原点に思いをはせる意味を込め、これまで長年にわたって関大のチタン研究を牽引されている池田勝彦名誉教授より「チタン今昔」を、また会員企業様に役立つ情報を、との意味で海外子会社の経営人材を養成する関西大学のプログラムの紹介をプログラムコーディネーター 三島徹也教授よりご講演いただきました。

講演37名、懇親会23名の参加となり、未来へのヒントを求めて会話がはずんだ研究会となりました。

## LECTURE 01 チタン今昔 チタンに関わって45年 株式会社日本スペリア社常任顧問・関西大学名誉教授 池田勝彦氏

本講演では、学生時代から現在に至るまで一貫してチタンの研究に携わってこられた池田先生が、研究の歴史を紐解きながら、チタンの魅力と課題についてご講演くださいました。

18世紀にグレゴアが発見し、クラプロートが酸化物をチタンと命名したことから始まるチタンの研究は、20世紀に入り還元法がいくつか開発され、軽くてさびない金属として社会実装がはじまりました。これに伴いチタンの研究が盛んとなり、関西大学も研究を深め、数々の成果（結晶構造を基にしたCr、Al、V等を複合する新規合金開発等）を挙げてられました。その成果は世界の学会発足(1968年)当時から毎回報告され、その後半世紀を経て、2021年に日本でチタン学会が発足。初代学会長を池田先生が担うことになりました。



関西大学が冶金分野で日本の研究をリードしてきた歴史を振り返るご講演であり、当時をなつかしむ声も飛び出し、呼応して往時の研究室の写真紹介もあり、和やかな雰囲気の中で、振興会発足の原点を振り返る機会となりました。

今後は、軽くてさびないチタンを異次元に展開するために、一層の市場開発と量産化(コストダウン)が課題となるとのこと。「スポーツ車いす」等新たな用途についての池田先生のお考えが示され、西村会長からは将来の「グリーンエレクトロニクス」への展開を期待していると話がありました。

チタンはバッチでしか還元ができないのでコストが下がらないが、これを解決できれば大幅コストダウンのチャンスがあるとのこと、「Possible Dream」と表現された大きな夢とチャレンジャブルな取り組みが今後のチタン研究の深化と発展を予感させる講演となりました。



## LECTURE 02

海外子会社の経営を担う人材を養成する  
大学院教育プログラム

関西大学専門職大学院 会計研究科教授 プログラムコーディネーター

三島徹也氏



本講演では、海外子会社、主にASEAN地域で経営を担う人材の教育プログラムについて紹介いただきました。

このプログラムは、文科省の委託を受け2016年スタート。現在10期生が受講しています。

12の経営管理能力（知識理解力、異文化適応力、人間関係力、経営交渉力、問題認知力、批判的思考力 主体的判断力、自己調整力、問題解決力、積極的行動力、リーダーシップ力、革新的創造力）が定義されてカリキュラムが組まれており、おおよそ160時間の履修でこれらを身に着けることができます。

ビデオによる事前学習、海外子会社着任者とのオンラインMTG、現地の慣習に対応できることを意図したグループディスカッション等、工夫・改善が積み重ねてられたカリキュラムとなっています。

「振興会の講演にふさわしいかな・・・」との思いを抱えながらご講演されたとのことでしたが、ふたを開けてみると「なんでもっと早く教えてくれないの?」「すでに赴任している人も受講できる?」等、すぐに活用検討したい旨の声があがる講演となりました。

その声を受け、三島先生が懇親会にも急遽ご参加いただくこととなり、会員企業が抱えている課題の相談相手となってくださり、本プログラム活用に向け、双方にとって絶好の情報交換の機会となりました。

このプログラムは、受講者にとっては土曜日と平日定時後の時間を充てる必要があり「やらされ感があるときつい内容ですが、社会人になってこれだけの教育を履修できるチャンスはめったにないと思えば、こんなにありがたい機会は無いです」です。

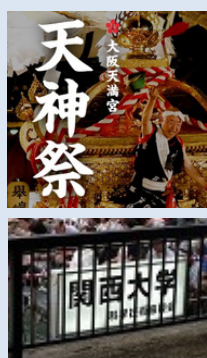
一方、経営者にとっては、補助金を利用すると企業実負担は20万円程度と格安で海外子会社の経営人材育成ができるメリットがあります。

受講場所が梅田キャンパスとリモート併用で、ケースバイケースで着任後の受講も可能となっていますので、人材育成でお困りの方は是非、関西大学社会人学び直し大学院プログラムオフィスへご相談ください。



関西大学 社会人学び直し大学院  
プログラムオフィス

06-6368-3016・・・右記へアクセス⇒



## 7月25日（木）：鳳講の船渡御奉納船に乗船

日本三大祭の一つ、天神祭のフィナーレを飾る船渡御の奉納船鳳講の船に、振興会会員・機構研究員・会員関係者が乗船し、歴史ある天神祭を堪能しました。

鳳講は御神霊を祀る講の一つで格式があり、乗船の機会は貴重なものです。船と船がすれ違うたびに「大阪締め」を行い、特に関西大学校友会の「関大丸」とすれ違う際は、互いの船から声を掛け合うなどして大きく盛り上がりました。



## &lt;アンケートのご回答&gt;

今年度も研究会について、会員の要望を把握し今後の研究会運営に反映するため、アンケートを実施いたします。

この度の第2回研究会の内容について、皆様より「大変参考になった」「理解しやすかった」との多くの回答をいただきました。関心のある技術分野については「環境・エネルギー」「ものづくり・加工」「ナノテクノロジー」が多数ございました。知りたい情報については「研究者の研究内容、専門分野」「会員企業の活動」との回答が多く見られました。その他「資料を後日PDFで配布してほしい」「新しい講演内容でよかった」また、「会員企業増、研究会参加者増、どのように・・・」などの意見がございました。

これらの結果を今後の研究会活動に反映するよう努めてまいりますので、ご支援・ご協力のほどよろしくお願いいたします。